

館山市子ども子育て支援事業計画（第2期計画）

施策事業の進捗評価／計画の振り返り

令和6年9月

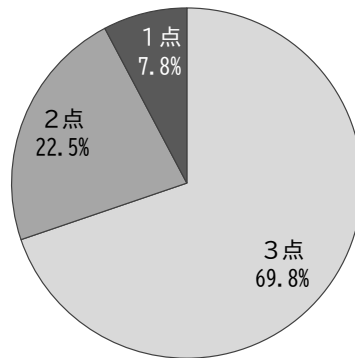
施策事業の進捗評価

第2期計画は、5つの基本目標と21の施策、129の事業で構成されています。この129事業を評価対象とし、評価を実施しました。「計画通りに実行した＝3点、一部実行した＝2点、実行できなかった＝1点」として評価し、「3点」が90事業、「2点」が29事業、「1点」が10事業という評価となりました。

	施策名	施策数	3点	2点	1点
計画全体		129	90	29	10
基本目標1 就学前の教育・保育の環境づくり		14	4	10	0
	1 就学前の教育・保育の充実	8	3	5	0
	2 教育・保育サービスの質の向上	6	1	5	0
基本目標2 子育て家庭を支援する環境づくり		43	33	8	2
	1 子どもと子育て家庭の居場所づくり	3	3	0	0
	2 子育てに関わる相談・ネットワークの充実	9	5	2	2
	3 経済的支援の充実	10	9	1	0
	4 発育・発達に関する支援	12	10	2	0
	5 児童虐待と配偶者暴力の防止対策	5	4	1	0
	6 ひとり親家庭等の支援	2	1	1	0
	7 仕事と生活の調和の推進	2	1	1	0
基本目標3 子どもが健康に育つための環境づくり		25	22	0	3
	1 母親と子どもの健康づくり	19	17	0	2
	2 「食育」の推進	4	3	0	1
	3 子どもの健康維持のための適切な医療環境の構築	2	2	0	0
基本目標4 親と子が地域で成長する環境づくり		34	25	6	3
	1 子どものための教育環境の整備	16	14	2	0
	2 多様な学習機会の提供	7	5	1	1
	3 家庭や地域の教育力の向上	8	5	1	2
	4 次代の親の育成	1	0	1	0
	5 子どもを取り巻く環境改善の推進	2	1	1	0
基本目標5 子どもが育つ安全安心の環境づくり		13	6	5	2
	1 子どもの安全確保	5	2	3	0
	2 災害に対する子育て家庭への支援	4	2	0	2
	3 子育てに配慮した生活環境の充実	4	2	2	0
	4 地域で育む元気な親				

割合にしてみると、全体の約70%が「3点」で、約23%が「2点」、約8%が「1点」となっています。

施策評価の結果（割合）



「実行できなかった」と評価された事業の課題について

施策事業の課題をみていくために、「1点」と評価されている事業を確認すると、10事業となっています（次ページ参照）。

このうち今後も継続していく予定の事業は、「未就園児を対象とした一時預かり事業の推進」、「保健推進員による啓発事業（たてやま☆元気サポーター事業）の実施」となっています。後者については、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度以降中止となっていた事業を再開していく予定となっています。

一方、「廃止・凍結」となっている事業は、「自主育児サークル支援」、「親と子のよい歯のコンクールの実施」、「田のくろ大学校事業の実施促進」、「祖父母世代への育児情報・育児に関する学習機会の提供」、「サポーター活動の検討」、「子育て家庭避難所の設定」の6事業となっています。これらの多くは、事業対象者の減少や担い手の減少などにより、事業の継続が困難となっています。

「廃止・凍結」となっているものの別の事業に転換してくものは、「マイ保育園登録制度（仮称）の実施」で、これは「こども誰でも通園制度（仮称）」に移行予定となっています。

基本目標2 子育て家庭を支援する環境づくり				
	施策	事業名	課題	次期計画での方向性
	2 子育てに関わる相談・ネットワークの充実	未就園児を対象とした一時預かり事業の推進	令和7年度より OURS 館山にて実施予定です。	維持して継続
		マイ保育園登録制度（仮称）の実施	こども誰でも通園制度に移行予定です。	廃止・凍結
基本目標3 子どもが健康に育つための環境づくり				
	施策	事業名	課題	次期計画での方向性
	1 母親と子どもの健康づくり	自主育児サークル支援	コロナ以降活動している育児サークルがなくなっており、事業の継続は困難となっています。	廃止・凍結
		親と子のよい歯のコンクールの実施	コンクールは新型コロナウイルス感染症の影響で中止していたところ、国が令和5年度をもって廃止したため、館山市としても廃止とします。	廃止・凍結
	2 「食育」の推進	保健推進員による啓発事業（たてやま☆元気サポーター事業）の実施	新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度以降中止となっていたが、今後は各学校の状況にあわせて再開する予定です。	継続（見直して）
基本目標4 親と子が地域で成長する環境づくり				
	施策	事業名	課題	次期計画での方向性
	2 多様な学習機会の提供	田のくろ大学校事業の実施促進	受け入れ先となる農業者の高齢化・規模縮小により「田のくろ大学校」事業を廃止しています。	廃止・凍結
	3 家庭や地域の教育力の向上	祖父母世代への育児情報・育児に関する学習機会の提供	祖父母世代も就労している家庭が増え、ニーズが少ないため、事業継続は困難となっています。	廃止・凍結
		サポーター活動の検討	サポーターの活動中の事故などの課題があったため未実施となっています。	廃止・凍結
基本目標5 子どもが育つ安全安心の環境づくり				
	施策	事業名	課題	次期計画での方向性
	2 災害に対する子育て家庭への支援	子育て家庭避難所の設定	検討を進めましたが、避難所として設定するのではなく、必要に応じて開放するなど、状況に合わせて対応することとします。	廃止・凍結
		子どもの心のケアに関する講座	新型コロナウイルス感染症の影響で未実施でしたが、令和6年度は元気な広場にて実施予定です。	未定

「一部実行できなかった」と評価された事業の課題について

施策事業の課題をみていくために、「2点」と評価されている事業を確認すると、29事業となっています（次ページ参照）。以下、基本目標ごとに、主要な課題についてまとめました。

■基本目標1 就学前の教育・保育の環境づくり

・「基本施策1 就学前の教育・保育の充実」

「保育園・幼稚園・こども園の運営」については、保育士不足のため、育児休業を6ヶ月以上取得した場合、上の子が退園しなければならない現状となっています。

「休日保育の実施検討」については、土曜保育のニーズには概ね応えられていますが、保育士の不足から十分な保育できないこともありました。

「乳児保育の実施」については、保育士不足のため、保護者の希望する園へ入所できない現状となっています。以上の3事業については、いずれも保育士の確保が課題となっています。

「障害児保育の実施」については、加配が不十分であり、保育士のスキルアップの機会も不足しており、改善が求められます。

・「基本施策2 教育・保育サービスの質の向上」

「職員の連携体制の確保」については、新型コロナウイルス感染症の蔓延以降、交流の機会が減ってしまっており、交流機会の確保が課題となっています。

「保育園・幼稚園・こども園・小学校との連携」については、接続コーディネーターを十分に活用できていないため、改善が求められています。

■基本目標2 子育て家庭を支援する環境づくり

・「基本施策2 子育てに関わる相談・ネットワークの充実」

「ファミリー・サポート・センター事業の推進」については、利用実績は年々減少しています。支援を行いたい人（任せて会員）の確保や、当日マッチングを積極的に行うことが求められています。

■基本目標4 親と子が地域で成長する環境づくり

・「基本施策1 子どものための教育環境の整備」

「危険箇所の改善」については、施設の老朽化により危険箇所が増加しており、施設の適切な維持管理が求められています。

■基本目標5 子どもが育つ安全安心の環境づくり

・「基本施策1 子どものための教育環境の整備」

「バリアフリー化の推進」については、歩道設置には、用地取得や現道幅縮小が考えられますが、沿道住民の理解や長期的な予算確保が必要です。整備効果が高い路線として、公共施設周辺、特に避難所に指定された学校近くが考えられ、館山小学校付近での交差点改良で一部歩道整備を行う予定です。また、市道3016号線の歩道未整備区画についても引き続き検討し、都市計画道路船形館山線では地権者との用地交渉と協力が課題となっています。

基本目標1 就学前の教育・保育の環境づくり				
施策	事業名	課題	次期計画での方向性	
1 就学前の教育・保育の充実	保育園・幼稚園・こども園の運営	保育士不足のため、育児休業を6ヶ月以上取得した場合、上の子が退園しなければならない。	維持して継続	
	休日保育の実施検討	土曜保育のニーズには概ね応えられているが、保育士の不足から十分な保育できないこともあった。	維持して継続	
	乳児保育の実施	保育士不足のため、保護者の希望する園へ入所できない。	維持して継続	
	障害児保育の実施	加配が不十分であり、保育士のスキルアップの機会も不足している。	維持して継続	
	民間保育所運営費補助事業	11時間以上開所している私立保育園2園に運営費補助を実施	維持して継続	
2 教育・保育サービスの質の向上	保育士等の研修及び施設整備	施設の老朽化により整備・改修箇所が増加している。	維持して継続	
	職員の連携体制の確保	コロナ以降交流の機会が減ってしまった。	継続（拡充して）	
	保育園・幼稚園・こども園・小学校との連携	接続コーディネーターを十分に活用できていない	継続（見直して）	
	情報共有を通じた保育環境の改善	情報共有が形式的になっている。	維持して継続	
	認可外保育施設の質の向上	少子化により利用者が減っている。	維持して継続	
基本目標2 子育て家庭を支援する環境づくり				
施策	事業名	課題	次期計画での方向性	
2 子育てに関わる相談・ネットワークの充実	ファミリー・サポート・センター事業の推進	利用実績は下がる一方である。支援を行いたい人（任せて会員）の獲得、当日マッチングを積極的に行う。	継続（見直して）	
	保育園開放・幼稚園ちびっ子デーなどの子育て支援（交流保育・育児相談）	学区の廃止、こども園の増加により選択の自由が広がった。	維持して継続	
3 経済的支援の充実	こども食堂の側方支援	民間団体が実施することも食堂の案内を置く等PRを行ったが、今後更なる支援について検討が必要。	維持して継続	
4 発育・発達に関する支援	居住地園交流の実施	新型コロナウイルス感染症の影響により実施できないことがあった。	維持して継続	
5 児童虐待と配偶者暴力の防止対策	養育支援訪問の検討	国のガイドラインに基づいた事業としては未実施であるが、専門的相談支援については、健康課保健師により支援を実施している。	維持して継続	
6 ひとり親家庭等の支援	母子・父子自立支援員による相談の実施	ひとり親家庭の多くは窓口を訪れる機会が限られており、相談窓口の周知や支援情報へのアクセスの向上が必要。	継続（拡充して）	

7	仕事と生活の調和の推	男女平等意識の啓発	講演会等の開催の機会は、あまりなかった。	維持して継続
基本目標4 親と子が地域で成長する環境づくり				
	施策	事業名	課題	次期計画での方向性
	1 子どものための教育環境の整備	危険箇所の改善	施設の老朽化により危険箇所が増加している。	維持して継続
	2 多様な学習機会の提供	スポーツ・レクリエーション活動の振興	概ね実施できているが、新型コロナウイルス感染症の影響や、日程調整の都合から一部実施できないものがあつた。	維持して継続
	3 家庭や地域の教育力の向上	コミュニティ事業への支援	新型コロナウイルス感染症の影響により、住民の活動自粛があつた。	維持して継続
	4 次代の親の育成	思春期ふれあい体験学習の実施	新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度より未実施となっていたが、令和5年度より実施を再開している。	維持して継続
	5 子どもを取り巻く環境改善の推進	防犯活動の促進	見守り等の防犯事業を実施する指導員らが軒並み高齢化しており、担い手不足となっている。	維持して継続
基本目標5 子どもが育つ安全安心の環境づくり				
	施策	事業名	課題	次期計画での方向性
	1 子どもの安全確保	交通安全指導体制の強化	現在も学校ごとに独自に見守り等を実施している面もあり、PTAなどの市民レベルでの自主的な活動を、より推進できれば尚よい。	維持して継続
		警察と学校等の関係機関との情報交換・連携	学校での交通安全教室の開催を更に充実させる	維持して継続
		防犯体制の充実	防犯事業が令和元年台風・コロナ禍により十分にできなかった。また、犯罪も巧妙化しているので随時対応が必要。	維持して継続
	3 子育てに配慮した生活環境の充実	バリアフリー化の推進	現道への歩道設置には、整備による用地取得または、現道幅縮小による方法が考えられるが、沿道住民の用地提供や前面道路の使い勝手など、相互理解が不可欠であり、実現には長期的かつ、継続的な予算の確保が必要である。 整備計画の実効性を考えると、用地取得の必要性が低く、整備効果の高い路線の選定が必要であると考えことから、公共施設、特に避難所に指定されている学校等の周辺で選定すると、館山小学校付近の市道152号線と県道南安房公園線との交差点改良により、一部、歩道整備を行うものである。	維持して継続

		また、市道 3016 号線（鏡ヶ浦通り）の館山大橋及び北側の歩道未整備区画については、引き続き整備に向けた検討を継続する。 さらに、都市計画道路船形館山線については、早期の供用開始を目指して用地交渉を実施しており、地権者に事業への理解を求め、協力を得ることが課題となる。	
	子育てにやさしい事業所制度の導入	県で実施する「チーパス事業」のチラシ配布等は実施してきたが、個々の店舗への子育て支援制度実施の働きかけはできていない。	未定